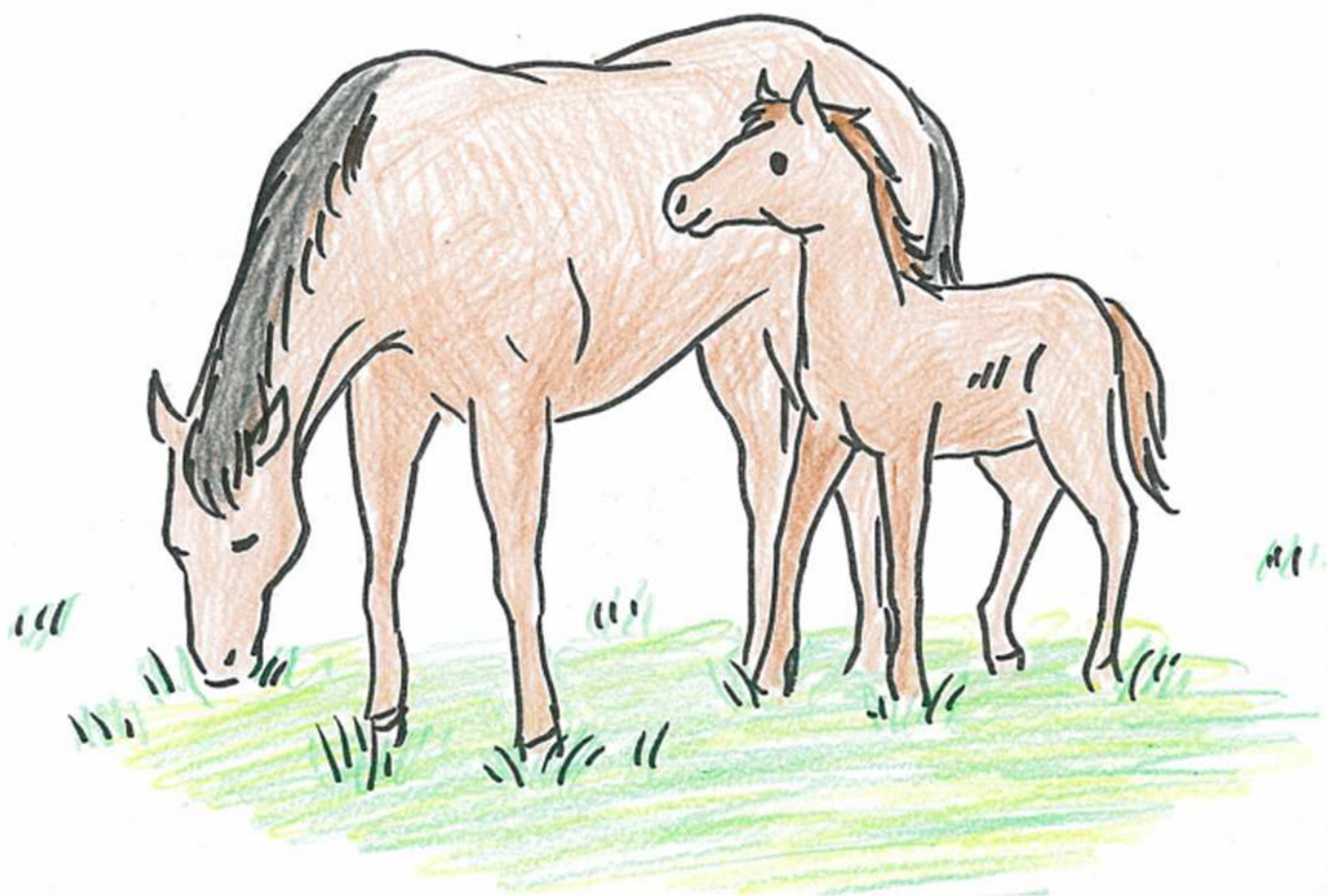




ふ ちゅう うま
府 中 と 馬



うま かが ふか
府中と馬はむかしから関わりが深いんだよ。

はなし
おもしろい話をしよう。

それはね・・・

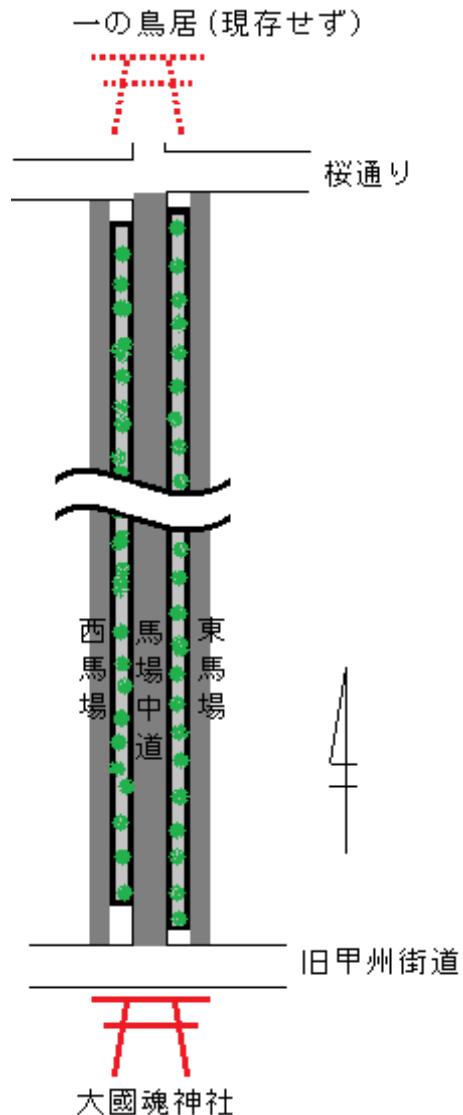


ば ば だいもん なみ き 馬場大門のケヤキ並木

ケヤキ並木と呼ばれている道は、桜通り
 の「けやき並木北交差点」辺りにある一の鳥
 居跡から大國魂神社の大鳥居手前までで
 す。真ん中の道は、馬場中道や馬場大門と呼
 ばれます。東西の歩道はそれぞれ東馬場、
 西馬場と呼ばれていました。平安時代後期

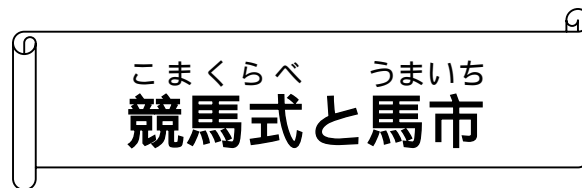
の康平5(1062)年頃に、源頼義・義家
 父子が戦勝のお礼にとケヤキの苗木
 1,000本を寄贈しました。これにならい、慶
 長11(1606)年には、徳川家康が同様に
 六所宮(大國魂神社)にケヤキの苗と馬場

(乗馬の練習をしたり馬を走らせたりす
 る場所)を奉納しました。はっきりとしたことは分かっていませんが、こうし
 た説が起源として知られています。このような話は、六所宮の言い伝えを通
 じて広まったと考えられています。



寛文7(1667)年、神社前に立てられた制札(注意やお知らせが書かれた
看板)に、「馬場の土手に植えた苗木を抜き捨てないこと」とあり、この頃
は木が植えられていたことが分かります。

ケヤキを含めた巨木の並木は珍しく、大正13(1924)年12月9日、
「馬場大門のケヤキ並木」として国の天然記念物に指定されました。



競馬式は数頭の馬を3回走らせる1,000年以上続いている儀式で、「駒く
らべ」と書かれることもあります。

府中に武蔵国の国府があった頃、府中周辺には良い馬が育つ牧場がたくさん
ありました。その中からより良い馬を選んで朝廷(天皇、もしくは天皇を
中心として政治を行う組織)に納めるために、国司(朝廷から来た役人)は
たくさんの馬を集めて走らせていました。これが競馬式の始まりだとされてい
ます。やがて馬を納めることはしなくなりましたが、競馬式は大國魂神社で行

われるくらやみ^{まつり} 祭^{ぎょう} の 行^じ 事^{ひと} の一つとして残^{のこ}っています。

また、府中^{うま}には馬^うを売^かり買^{うまいち}いする馬市^{いち}という市場^ばがありました。いつから始^{はじ}

まったのか分^わかっていませんが、大國魂神社^{おおくにたまじんじや}の近^{ちか}くで 行^{おこな}われていたようです。

江戸時代^{え ど じ だい}の初^{はじ}めには、府中^{うまいち}の馬市^よは良^{うま}い馬^てが手^{はい}に入^{ゆうめい}ることで有^い名^いでした。言^い

伝^{つた}えによると、徳川家康^{とくがわいえやす}は府中^かで買^{うま}った馬^{おおさか}のおかげで、大坂^{じん}の陣^{せき} (関ヶ原^{が はら}の 戦^{たたか}

いだったともいわれていています) に勝^かつことができたとも伝^{つた}えられています。

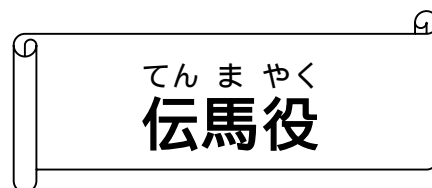
そして、幕府^{ばく ふ}が役人^{やくにん}を派遣^{は けん}して 将 軍^{しょうぐん}のための馬^{うま}を選^{えら}ぶようになると、大 名^{だいみょう} た

ちも府中^{うま}で馬^かを買^{うまいち}ったため馬市^{おお}はより多^{ひと}くの人^{ひと}でにぎわいました。

しかし、江戸城^{え ど じょう}の近^{ちか}くに 新^{あた}しい馬市^{うまいち}ができたことや、戦^{たたか}い^へが減^{うま}って馬^{うま}

使^{つか}う機^き会^{かい}が少^{すく}なくなっことなどが原因^{げんいん}で、府中^{うまいち}の馬市^{うまいち}はだんだんと規^き模^ぼが小^{ちい}

さくなり、いつしか行^{おこな}われなくなりました。



江戸時代^{え ど じ だい}、幕府^{ばく ふ}は江戸^{え ど}・日本橋^{にほんばし}を出^{しゅっぱつてん} 発^{みち}点^{せい}とし^びた 5 本の道^{ご かいどう}を整^{せい}備^びし、五^ご街^{かい}道^{どう}

として重^{じゅう}要^{よう}な道^{みち}としました。このうち^{え ど}の 1 本^{こう ふ}が江戸^{むす}と甲府^{こうしゅうかいどう}を結^くぶ甲^{こう}州^{しゅう}街^{かい}道^{どう}

す。その中^{ちゅう}間^{かん}にある府中^{ふ ちゅうしゆく}は、府中^よ宿^{しゆく}と呼ば^{しゆく}れる宿^{ばん}場^ば町^{しゆく}となり、番^{ばん}場^ば宿^{しゆく}・本^{ほん}

まち しんしゅく な た
町・新宿から成り立っていました。

むかしは自動車や電車がなかったので、馬に乗せて人や荷物を運ぶことがよくありました。運び手となる人や馬はそれぞれの宿で用意します。この役目を伝馬役と言います。

ひがし ふ た ご しゅく げんざい ちょうふ し ない にし ひ の しゅく げんざい ひ の し ない こう
東は布田五宿（現在の調布市内）、西は日野宿（現在の日野市内）、また高
さつ ば やくしよ めいれい し か ふだ は だ ば しよ
札場（むかしの役所が命令やお知らせなどを書いた札を張り出した場所）から
みなみ そうしゅうどうせき ど げんざい た ま し ない きた かわごえかいどう お がわむら げんざい こだいら し ない
南は相州道関戸（現在の多摩市内）、北は川越街道小川村（現在の小平市内）
までの運送を、府中宿では行っていたようです。

しゅく とい や ば つぎたて よ ひと うま の か おこな
宿ごとにある問屋場では、「継立」と呼ばれる人や馬の乗り換えが行われ
ました。宿では、決まった数の人や馬を用意することになっていましたが、
た きんりん むら たす すけごう せい ど
足りなくなると近隣の村に助けてもらう、「助郷」という制度がありました。

ひと うま に もつ ふ わ やくわり ばさし
人や馬に荷物を振り分ける役割のことを、馬指や
じんばさし い
人馬指と言います。
ふだんは交代で仕事をして、大名行列の時には全員で
はたら
働きました。

うま いしゃ しも よ いちろう 馬の医者・下与市郎

むかし、「御馬屋」とか「御馬屋敷」と呼ばれていた屋敷が大國魂神社の東

南の辺りにありました。そこに住んでいたのは下氏という一族で、代々、下与

市郎の名前を引継ぎ、御家人として江戸幕府に仕えてきました。

御家人とは、徳川家に直接仕えている家臣のうち、「お目見以下（将軍に

会うことができない立場）」のものと一般にいられています。御家人の多くは

江戸城の近くに住んでいましたが、下氏の家は江戸城から離れた府中にあり
ました。

下氏が府中に住むようになったのは、江戸時代の初め頃にまでさかのぼりま

す。青梅村に住んでいた初代の下与市郎は、徳川家康に命じられ、大坂の陣で

お供をして馬の治療や世話などをしたそうです。その後、府中に屋敷を与え

られ、御厩（馬を飼っておく小屋）を作るように命じられました。初代から

3代目までの下与市郎は、「御厩方」という役職を与えられ、将軍が使った

馬や病気になる馬などを御厩で預かっていたようです。

享保8（1723）年（第8代将軍・徳川吉宗の時代）3代目の時に御厩が

はいし だいいめ ばい けいこ ころろ めい
廃止されると、4代目は「馬医の稽古を心がけるように」と命じられるだけで、

やくしよく あた だいいめ そうぞく とし え どじょう たきび
役職は与えられませんでした。また、3代目が相続する時は江戸城の「焼火

の ま い わた だいいめ とし ごけにん なか せき いじょう み
之間」で言い渡されましたが、4代目の時は御家人の中の「席以上」という身

ぶん そうぞく とし つか え どじょう つつじのま い わた
分の相続の時に使われる江戸城の「躑躅之間」で言い渡されています。その

ご ばくまつ けいおう だいいめ きへいぶぎょうつ ばい めい
後、幕末の慶応3（1876）年の2月に7代目が騎兵奉行付きの馬医を命じ

ふたたび ばくふ やくしよく つ
られ、再び幕府の役職に就くことになりました。

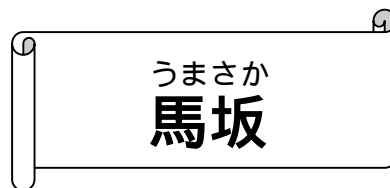
けいおう たいせいほうかん ばくふ てんのう せいじ けんり かえ
慶応3（1867年）年に大政奉還（幕府が天皇に政治の権利を返すこと）が

おこな すんぶはん しろ げんざい しずおかけんしずおかし ちゅうしん はん はん
行われると、駿府藩（城があった現在の静岡県静岡市を中心とした藩）の藩

しゅ だい だいとくがわ けとうしゅ とくがわいえさと したが しもし どうしゅ すんぶ うつ
主となった第16代徳川家当主・徳川家達に従って、下氏の当主は駿府に移り

す ご なまえ しもぶんさく むすこ しもいつろう な の しも
住みます。その後、名前を下文朔とし、その息子は下逸郎と名乗りました。下

よいちろう なまえ えどばくふ お つか
与市郎の名前は江戸幕府が終わると使われなくなったようです。



とうきょうけい ばじょう きたがわ ふ ちゅうがいせん きぎ ひろ しず
東京競馬場の北側にある府中崖線は、こんもりとした木々が広がり、静

お つ ようす くさ やね ちゃしつ きゅうりんそう
かで落ち着いた様子です。ここには、草ぶき屋根の茶室などがある鳩林荘が

きゅうりんそう にしがわ きた む きゅう さか うまさか よ
あります。鳩林荘の西側には北へと向かう急な坂があって、馬坂と呼ばれて

います。

江戸時代、この辺りには幕府御家人の下氏の屋敷がありました。この一族は、
将軍が使った馬やこれから育てる馬、病気の馬などを預かって世話をしてい

たといわれています。

馬坂という名前は、明治時代の頃にはすでに使われていたようですが、その
由来は明らかではありません。この地に住んでいた下氏の家が「御馬屋」とか
「御馬屋敷」と呼ばれていたことから、馬坂と名付けられたのかもしれませんが

。

とうきょうけいばじょう 東京競馬場

大正から昭和にかけて、府中には色々な所から大規模な施設が進出して
きました。昭和8(1933)年に、目黒からの現在の場所に移転してきた東京
競馬場もその一つです。目黒からの移転先を決めるときには、100を超える
候補地が挙げられたそうです。土地が広く交通が便利なこと・水が豊富で質が
良いこと・競走馬に食べさせる青草が十分にあることなどのたくさんの条
件を満たしていて、さらに町をあげて熱心な移転運動が行われたので、府中

さいてき ち えら げんざい けい ば さいてん とうきょうゆうしゅん にっ
が最適地として選ばれました。現在は、競馬の祭典といわれる「東京優駿(日
ぼん
本ダービー)」や、「ジャパンカップ」など大きなレ - スが開催される国内最大
きゅう けい ば じょう
級の競馬場となっています。

けい ば じょう きたがわ げんえき ふ こう びょう き な きょうそう ば
競馬場の北側には、現役のまま不幸にもけがや病気で亡くなった競走馬
く しょう た ば れいとう とう りょう
を供養するために建てられた馬霊塔(宮町三丁目)があります。この塔の両
がわ すう ぼ せき た せんぜんしょう うま
側には十数もの墓石が建っていて、レースに10戦全勝して「まぼろしの馬」
よ とうきょうゆうしゅんだいきょうそう げんざい とうきょうゆうしゅん
と呼ばれた『トキノミノル』のほか、「東京優駿大競走(現在の「東京優駿
に ほん ゆうしょう れきだい めい ば な まえ きざ
(日本ダービー))」で優勝した『ガヴァナー』など歴代の名馬の名前が刻ま
ば れいとう となり ば とうかんのん
れています。また、馬霊塔の隣には馬頭観音がまつられています。



とうきょうけい ば じょうまええき ふちゅうけい ば せいもんまええき 東京競馬場前駅と府中競馬正門前駅

かつて、東京競馬場の西側（矢崎町1丁目）には、日本国有鉄道（JRの
むかしの名前）下河原線の終着駅だった「東京競馬場前」駅がありました。
この「東京競馬場前」駅という駅名は、日本で一番長い駅名だった時期
（1949～1952年）があります。現在の下河原緑道はその廃線跡を利用し
て作られています。

下河原線は「東京競馬場前」駅から「北府中」駅を通り、「国分寺」駅ま
で走っていました。元々は多摩川でとれる砂利を運び出すための鉄道でしたが、
昭和9（1934）年から競馬開催期間に限って乗客を運ぶようになりました。
第二次世界大戦によって昭和19（1944）年には競馬もできなくなったので、
運行が中止されました。昭和22（1947）年に戦争が終わると、競馬開催日
の営業を再開するようになります。その後、昭和24（1949）年からは一年
中運行するようになりましたが、昭和48（1973）年、武蔵野線が開業し
た日に廃駅となりました。

新宿方面からの観客は京王電気軌道（京王電鉄のむかしの名前）を利用し

とうきょうけいばじょうむ
て東京競馬場へ向かいました。その後、現在の「東府中」駅のある場所に

りんじけいばじょうまええきかいせつえきまえけいばじょういりぐちれんらくじどうしゃはし
「臨時競馬場前」駅を開設し、駅前から競馬場の入口まで連絡自動車を走ら

せていました。しょうわ
昭和12（1937）年には駅の名前を「東府中」駅に変更し

ています。しょうわ
昭和30（1955）年には

ひがしふちゅうえきけいおうけいばじょうせんかいつう
「東府中駅」から京王競馬場線が開通し、

けいばじょういりぐちふちゅうけいばせいもんまええき
競馬場の入口に「府中競馬正門前」駅が

かいせつ
開設されました。





しよほん もっと知りたくなったら読む本のリスト

しよめい ほん なまえ 書名（本の名前）	ちよしゃ ほん が ひと 著者（本を書いた人）	しゅっぱんねん 出版年	ほん せ 本の背ラベル
まち れきし ふ ちゅう わが町の歴史 府中	えんどう よしつぐ ちょ 遠藤 吉次 / 著	1985	F21/I
きょうど ふ ちゅう へいせい ねん ど 郷土府中 平成26年度	ふ ちゅう し りつちゅうがっこうしゃかい か ふく 府中市立中学校社会科副 読本 へんしゅういいんかい へん 編集委員会 / 編	2014	F21/キ
ふ ちゅう し ぶん か ざい しりょう 府中市文化財めぐり資料	ふ ちゅう し きょういく い いんかいぶん か ぶ 府中市教育委員会文化部 しゃかいきょういく か へん 社会教育課 / 編	1982	F21/7
ふ ちゅう し れきし しんばん 府中市の歴史 新版	ふ ちゅう し きょういくいいんかい 府中市教育委員会 しょうがいがくしゅうぶ 生涯学習部 しょうがいがくしゅうかぶんかざいたんとう へん 生涯学習課文化財担当 / 編	2006	F21/7
ふ ちゅう し し じょうかん げ かん 府中市史 上巻・下巻	ふ ちゅう し し へんさん い いんかい へん 府中市史編纂委員会 / 編	1974	F213/10/7
ふ ちゅう し し ふ へん 府中市史 付編	ふ ちゅう し し へんさん い いんかい へん 府中市史編纂委員会 / 編	1967	F213/10/7
ぞうし いしぶみ草紙	ぶん か ぶ ぶん か しんこう か 文化スポーツ部文化振興課 へん / 編	2010	F29/I
くにしていてんねん き ねんぶつ ば だいもん 国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木 ふ ちゅう し きょうど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館ブックレット7	ふ ちゅう し きょうど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館 / へん 編	2005	F47/7
こうしゅうかいどう ふ ちゅうしゆく 甲州街道 府中宿 ふ ちゅう し きょうど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館ブックレット1 かいていはん 改訂版	ふ ちゅう し きょうど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館 / へん 編	2008	F682/10/J
ふ ちゅう し ぶん か ざい 府中市の文化財	ふ ちゅう し きょういく い いんかい へん 府中市教育委員会 / 編	1997	F70/7
ふ ちゅう とうきょうけいば じょう 府中と東京競馬場	けいば はくぶつかん へん J R A 競馬博物館 / 編	1995	FZ4/788/7

「府中と馬」 こども府中はかせ No.4

2015年3月発行

2025年3月改訂

府中市立図書館 編集・発行

<https://library.city.fuchu.tokyo.jp/>

さがしている本が見つからないときは、図書館の人にきいてみましょう。

